

## ⑯ 公開特許公報 (A) 平3-152170

⑯ Int. Cl. 5

C 09 D 11/00  
11/02

識別記号

P S Z  
P T F A  
P T G B

庁内整理番号

7038-4 J  
7038-4 J  
7038-4 J

⑯ 公開 平成3年(1991)6月28日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全5頁)

⑯ 発明の名称 インクジェット記録液

⑯ 特願 平1-291571

⑯ 出願 平1(1989)11月9日

⑯ 発明者 岡 拓也 神奈川県横浜市神奈川区入江2丁目5番12号 三菱鉛筆株式会社横浜事業所内

⑯ 出願人 三菱鉛筆株式会社 東京都品川区東大井5丁目23番37号

⑯ 代理人 弁理士 杉山 泰三

## 明細書

記録液。

発明の名称 インクジェット記録液

発明の詳細な説明

## 特許請求の範囲

- 熱エネルギーを利用して、液路に供給されている記録液体を、前記液路に連通する吐出口より吐出し飛翔液滴を形成して記録を行なうインクジェット記録装置用の記録液に於いて、ポリグリセリンを含有することを特徴とするインクジェット記録液。
- 前記ポリグリセリンの含有量を記録液の全重量に対して0.1~50%の範囲とした請求項1記載のインクジェット記録液。
- 前記ポリグリセリンの重合度を2~10の範囲とした請求項1又2記載のインクジェット記

## (産業上の利用分野)

本発明は、インクジェット記録装置用の、より詳しくは、熱エネルギーを利用して、記録ヘッドに設けられた微細なインク吐出口(吐出オリフィス)からインクを吐出させることにより飛翔液滴を形成して、その液滴によつて記録を行なうインクジェット記録装置に適した記録液に関する。

## (従来の技術)

インクジェット記録方式による記録は、低騒音であり、且つ記録の高速化及びカラー化が容易であり、又、普通紙が使用できる可能性があ

るため、近年各種プリンター、コピー、ファクシミリ等への応用、開発が盛んに行なわれている。

この様なインクジェット記録法は、インクと称される記録液の液滴を飛翔させ、これを被記録材に付着させて記録を行なうものである。かかる記録液は、記録剤(染料又は顔料)及びこれを溶解又は分散する液媒体(水又は各種有機溶剤或はこれらの混合物)を基本的成分とし、又必要に応じて各種添加剤が添加されている。この様な記録法には、液滴の発生方法や液滴の飛翔方向の制御方法を異にする種々の方式がある。例えば、飛翔液滴の発生方法としては、ピエゾ振動子によつて記録液に圧力を加える方法、記録液に静電界をかけてその引力を利用する方法、記録液

あるからである。また、吐出停止が起こらないまでも、固体分の発生は、均一な液滴の発生或は液滴の安定な飛翔等に対して悪影響を及ぼし吐出安定性、吐出応答性及び記録性を低下させる原因となる。また、記録液の構成成分が化学変化を起こすと、調合時に所望の値に調整された記録液の物性値が変化し、やはり、吐出安定性、吐出応答性及び記録性を低下させる弊害もある。従つて気化しにくい液媒体成分、化学的に安定な記録剤、及び上記の欠点を生じない液媒体の組合せが求められている。

特に、記録に使用する飛翔液滴を、熱エネルギーを利用して形成する場合、上記の比較的緩慢な化学変化や、溶剤分の気化の他に、液滴形成時に記録液に加えられた熱エネルギーが、イ

ン熱エネルギーを加えてその際発生する圧力を利用する方法などが知られている。

この様に、液滴の発生方法だけを見ても、その方法は様々である。従つて、良好な記録を行うためには、使用される記録液が液滴の発生方法或は液滴の飛翔方向の制御方法に応じて最適な物性値、例えば粘度、表面張力、比抵抗、誘電率等を有する必要がある。そして、何れの方式に於いても、記録液は、長期間の保存或は記録の休止中に液媒体成分の気化或は構成成分の化学変化等により、固体分が生じてはならない。一般にこの様の記録装置の吐出オリフィスは、微細な穴(一般に直径20~60μm程度)であるために、固体分の発生は目詰まりの原因になり液滴が全く吐出しなくなることが

シク中の溶剤成分を急激に気化して焦げ付きを起こしこの焦げ付きによる固体分を吐出オリフィス内において発生させたり吐出オリフィス内の記録液を加熱して化学変化を激化させてるので、その結果、吐出安定性、吐出応答性及び記録性等を損なう度合が顕著となる。また、連続印字時に、液滴形成のために加えられた熱エネルギーが、吐出オリフィス周辺に蓄積されて長時間連続印字性を損なう弊害もある。

#### (発明が解決しようとする課題)

本発明は、上記のような、熱エネルギーを利用して吐出オリフィスからインク滴を吐出させて記録を行なうインクジェット記録装置用記録液の問題点を解消すること、即ち、熱エネルギーが加えられても、記録液成分の焦げ付きや、

化学変化による固体分の発生を防ぐと共に物性値の変化も防いで、吐出安定性、吐出応答性、記録性及び長時間連続印字性などが良好で、滲みやカスレが無く鮮明な高品位の印字による安定した記録を可能とする熱エネルギーを利用してインクジェット記録用の記録液の提供を目的とする。

## (課題を解決するための手段)

上記目的を達成するために、本発明のインクジェット記録液は、熱エネルギーを利用して、液路に供給されている記録液体を、前記液路に連通する吐出口より吐出し飛翔液滴を形成して記録を行なうインクジェット記録装置用の記録液に於いて、ポリクリセリンを含有することを特徴とするものである。

例えばメチルアルコール、エチルアルコール、ローブロビルアルコール、ベンジルアルコール等の炭素数1～10のアルキルアルコール系溶剤、エチレンクリコール、プロピレンクリコール、グリセリン等の多価アルコール系溶剤、テトラヒドロフラン、ジオキサン等の環状エーテル系溶剤、その他トリエタノールアミン、ジメチルホルムアミド等のアミン系、アミド系、N-メチル-2-ピロリドン、1,3-ジメチル-2-イミダゾリジノン等の含窒素複素環系、等の各種の溶剤が挙げられる。これらの列举した液媒体は、使用される記録剤や添加剤との親和性及び記録液としての前述の諸特性を満足し得るよう適宜選択して使用されるものであるが、更に、所望の特性を有する記録液を調合するた

めに、即ち、本発明のインクジェット記録液は、記録像を形成する成分である記録剤と、記録剤を溶解又は分散させるための液媒体に、ポリクリセリンが加えられたもので、また必要に応じて各種添加剤が加えられるものである。

本発明の記録液に使用するポリクリセリンの好ましい含有量は、記録液全重量に対して、1～50重量%であり、より好適には、5～30重量%の範囲である。また、上記ポリクリセリンの重合度は、好適には、2～10程度の範囲である。

また本発明の記録液に使用する液媒体としては、従来から本発明に関わる技術分野で一般的に使用されている水又は下記のような非水系液体を使用することが出来る。

めに、必要に応じて適宜2種以上を混合してもよい。

また、本発明の記録液に使用する記録剤としては、長時間放置による室内や記録液タンク内での沈降、凝集、更には供給管や吐出オリフィスの詰まりを起こさない様に前記液媒体組成分や添加剤との関係を考慮すると共に、被記録材の特性に応じてその記録条件に適合するよう適宜選択しなければならないが、従来より知られている染料や顔料の多くのものが有効であり、ポリクリセリン及び前記のポリクリセリンと混合し得る溶剤群の中から選ばれた溶剤に安定に溶解、又は分散可能なものであればよい。

本発明の記録液は、上記の成分を基本構成成分とし、それ自体優れた性質を有するものであ

るが、更に一層顯著な記録特性を具備せしめる為に、種々の添加剤が添加されても良い。このような添加剤としては、例えば粘度調整剤、表面張力調整剤、比抵抗値調整剤などが挙げられる。

#### ( 作 用 )

本発明の記録液に使用するポリグリセリンは、沸点が高く、且つかなりの低温領域まで液体状であり、しかも水や、アルコール類、グリコール類等のしばしば水と混合して用いられる水溶性有機溶剤に対して優れた溶解度を示す。また、各種染料に対する溶解力や、各種顔料に対する分散安定性に優れている。このために、記録液を構成する成分の一部が蒸発してしまつても、ノズルの目詰まりを起こす心配が全く無い。

上記の組成で充分に攪拌を行なつた後、1μm以上 の不溶性成分の粒子を濾過によって取り除き、本発明の記録液を調製した。

#### 実施例 2.

C. I. フードブラック 2	4 %	ジエチレングリコール	20 %
エチレングリコール	15 %	ポリグリセリン(重合度 2 )	5 %
ポリグリセリン(重合度 10 )	10 %	水	69 %
N-メチル-2-ビロリドン	10 %		
水	61 %		

上記の組成で、実施例 1 と同様にして本発明の記録液を調製した。

#### 実施例 3.

C. I. アシッドブルー 9	6 %	プロピレングリコール	5 %
エチレングリコール	20 %	ポリグリセリン(重合度 2 )	15 %
ポリグリセリン(重合度 6 )	10 %	水	74 %
水	64 %		

この様に記録液中にポリグリセリンを含有すると、低温から高温に至る広範囲な温度範囲にわたつて、記録液の保存性、吐出安定性、吐出応答性、長時間連続記録性に於いて良好な結果が得られる。特に、非動作状態で放置された後の初期吐出性、及び長時間連続記録時の記録安定性に於いて卓越した効果を發揮する。

#### ( 実 施 例 )

以下、本発明を、実施例により更に具体的に説明する。以下において、「%」は、全て「重量%」を示すものとする。

#### 実施例 1.

C. I. ダイレクトブラック 154	5 %
2-ビロリドン	10 %
ポリグリセリン(重合度 4 )	10 %
水	75 %

上記の組成で、実施例 1 と同様にして本発明の記録液を調製した。

#### 実施例 4.

C. I. アシッドイエロー 23	6 %
ジエチレングリコール	20 %
ポリグリセリン(重合度 2 )	5 %
水	69 %

上記の組成で、実施例 1 と同様にして本発明の記録液を調製した。

#### 実施例 5.

C. I. アシッドレッド 87	6 %
プロピレングリコール	5 %
ポリグリセリン(重合度 2 )	15 %
水	74 %

上記の組成で、実施例 1 と同様にして本発明

の記録液を調製した。

また、上記の各実施例と比較するために、実施例1～5のポリグリセリンを、各実施例で使用されている水以外の有機溶剤に置換（複数の有機溶剤を使用しているものは各有機溶剤の比率を維持して置換）して、実施例1～5と同様の処理により、実施例1～5に対応して比較例1～5の記録液を調製した。

そして、まず、上記の各実施例の記録液について長期保存性のテストを行なつた。即ち、実施例1～5の記録液を、-30℃と60℃で2ヶ月保存した後の状態を観察したが、不溶分の析出はみられず、また液の物性や色調にも変化がなかつた。

次に、上記の各実施例と各比較例の記録液に

室温で、2秒毎の間欠吐出と、2ヶ月間放置後の吐出について調べたが、実施例の記録液は、いずれの場合もオリフィス先端での目詰まりがなく、安定で均一に記録が可能であつたのに対し、比較例の各記録液は、2ヶ月間放置後の吐出では、オリフィスに目詰まりを生じ、極度の吐出不良となつた。

#### （発明の効果）

本発明は、叙上の通りであり、長期間保存しても或は熱エネルギーが加えられても固体分を生じることがないのでオリフィスに目詰まりを起すことがなく且つ物性値も変化しないので、長時間連続的に吐出が良好な状態を維持できて、渦みやカスレの無い鮮明な高品位の印字による安定した記録を連続長期的に可能とする効果が

ついて、吐出安定性と吐出応答性のテストを行なつた。尚、これらのテストは、発熱素子をインク吐出のエネルギー源として利用したオーデマンド型のインクジェットプリンタ（オリフィスサイズφ60μm、ノズル数12本、駆動電圧15V、周波数1KHz）を用いて行なつた。これらテストの内容と結果は以下の通りである。

#### ② 吐出安定性

5℃、40℃の雰囲気中で、それぞれ24時間の連続吐出テストを行なつたが、実施例の記録液は、いずれの条件でも、終始安定した記録が可能であつたが、比較例の記録液は、長時間吐出を行なわせると、吐出不良となり、印字にカスレを生じた。

#### ③ 吐出応答性

ある。

特許出願人 三菱鉛筆株式会社

代理人 弁理士 杉山泰三



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-328644

(43)公開日 平成9年(1997)12月22日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup> C 0 9 D 11/00 11/10	識別記号 P S Z P T V	府内整理番号 F I	C 0 9 D 11/00 11/10	P S Z P T V	技術表示箇所
---	------------------------	---------------	------------------------	----------------	--------

審査請求 未請求 請求項の数4 O.L (全6頁)

(21)出願番号 特願平9-57314	(22)出願日 平成9年(1997)3月12日	(31)優先権主張番号 特願平8-86260	(32)優先日 平8(1996)4月9日	(33)優先権主張国 日本 (JP)
------------------------	----------------------------	---------------------------	-------------------------	-----------------------

(71)出願人 000105947 サカタインクス株式会社 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目23番37号	(72)発明者 土屋 達郎 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目23番37号 サカタインクス株式会社内	(72)発明者 大塚 茂 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目23番37号 サカタインクス株式会社内	(72)発明者 藤原 正志 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目23番37号 サカタインクス株式会社内	(74)代理人 弁理士 湯浅 恒三 (外5名)
---	--	---	--	----------------------------

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 インクジェット記録用インク組成物

(57)【要約】

【課題】 吐出オリフィスの目詰まりのない、インクジェット記録用インク組成物を提供すること。

【解決手段】 水性媒体中に顔料と、重合度2~10のポリグリセリン1モル当たり5~90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物を含有することを特徴とするインクジェット記録用インク組成物。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 水性媒体中に顔料と、重合度2～10のポリグリセリン1モル当たり5～90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物を含有することを特徴とするインクジェット記録用インク組成物。

【請求項2】 水性媒体中に顔料と水性樹脂と、重合度2～10のポリグリセリン1モル当たり5～90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物を含有することを特徴とするインクジェット記録用インク組成物。

【請求項3】 ポリグリセリン1モル当たり5～90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物の含有量が、インクジェット記録用インク組成物全重量の0.5～30重量%の範囲にあることを特徴とする請求項1または2記載のインクジェット記録用インク組成物。

【請求項4】 前記水性樹脂が、炭素数8～20のアルキル基を有する(メタ)アクリル酸エステルと炭素数1～7のアルキル基を有する(メタ)アクリル酸エステルと(メタ)アクリル酸との共重合体である、請求項2記載のインクジェット記録用インク組成物。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、インクジェット記録用インク組成物に関し、より詳しくは記録ヘッドのオリフィスよりインクを飛翔させて記録を行うインクジェット記録装置用の、吐出オリフィスの目詰まりのないインクジェット記録用インク組成物に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 インクジェット記録方式は、記録時の騒音の発生が少なく、高集積のヘッドを使用することにより、高解像の記録画像が高速に得られるため、近年各種プリンター、コピー、ファクシミリ等への応用、開発が盛んに行われている。

【0003】 このようなインクジェット記録法は、インクジェット記録用インク組成物の液滴を飛翔させ、これを被記録材に付着させて記録を行うものである。前記インクジェット記録用インク組成物としては、染料又は顔料及びこれを溶解又は分散する水性媒体(水及び/又は水混和性溶剤)を主成分とし、必要に応じて水性樹脂及び/又は添加剤が添加されている。この様な記録法には、液滴の発生方法や液滴の飛翔方向の制御方法が異なる種々の方法がある。例えば、飛翔液滴の発生方法としては、ピエゾ振動子によりインクジェット記録用インク組成物に圧力を加える方法、インクジェット記録用インク組成物に静電界をかけその引力を利用する方法、インクジェット記録用インク組成物に熱エネルギーを加えてその際発生する圧力を利用する方法等が知られている。

【0004】 従って、良好な記録を行うためには、使用されるインクジェット記録用インク組成物が液滴の発生方法或いは液滴の飛翔方向の制御方法に応じ最適な物性値、例えば、粘度、表面張力、比抵抗、誘電率等を有す

る必要がある。そして、いずれの方式においても、インクジェット記録用インク組成物は、長期間の保存或いは記録の休止中に液媒体の気化或いは構成成分の変化等により、固体分が生じてはならない。これは、一般にインクジェット記録装置の吐出オリフィスは、微細な穴(直径50μm程度)であるため、固体分の発生は目詰まりの原因になり液滴が吐出しなくなる場合が生じるからである。また、吐出停止が生じないまでも、固体分の発生は、均一な液滴の発生或いは液滴の安定な飛翔等に対して悪影響を及ぼし吐出安定性、吐出応答性が低下し、同時に画像品質も低下させる原因となる。また、インクジェット記録用インク組成物の構成成分が化学変化を起こすと、調合時に所望の値に調整されたインクジェット記録用インク組成物の物性値が変化し、吐出安定性、吐出応答性が低下し、同時に画像品質も低下してしまう。

【0005】 現状、インクジェット記録用インク組成物の色材としては染料が一般に用いられており、印字画像の耐水性、耐光性が不十分なものが多い。このため、耐水性、耐光性の良好な顔料を使用したインクジェット記録用インク組成物が求められている。しかしながら、顔料を使用すると吐出オリフィスの目詰りが発生しやすいという問題点を抱えている。

【0006】 特開平3-152170号公報には、ポリグリセリンを含有するインクジェット記録液が開示されている。この公報には、染料を含有するインクジェット記録液のみが具体的に記載されており、顔料を含有するものについては具体的に開示されていない。また、グリセリン等の多価アルコールにエチレンオキサイドまたはプロピレンオキサイドを付加してなる化合物を含有するインク組成物が従来から知られているが(例えば、特開平4-18465号公報)、吐出オリフィスの目詰まり防止については十分な効果が得られていない。

## 【0007】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、これらの問題を解決するためになされたものであり、吐出オリフィスの目詰まりのない、インクジェット記録用インク組成物を提供することを目的とするものである。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは、前記課題を解決すべく研究を重ねた結果、インクジェット記録用インク組成物に重合度2から10のポリグリセリン1モル当たり5～90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物を含有させることにより、これらの課題を解決できることを見出し、本発明を完成するに至ったものである。

【0009】 即ち、本発明は水性媒体中に顔料と、重合度2から10のポリグリセリン1モル当たり5～90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物を含有するインクジェット記録用インク組成物に関する。また、本発明は水性媒体中に顔料と水性樹脂と、重合度2から

10のポリグリセリン1モル当たり5～90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物を含有するインクジェット記録用インク組成物に関する。さらには、前記ポリグリセリン1モル当たり5～90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物の含有量が、インクジェット記録用インク組成物全重量の0.5～30重量%の範囲にあるインクジェット記録用インク組成物に関する。

## 【0010】

【発明の実施の形態】以下に、本発明をさらに詳しく説明する。

【0011】本発明のインクジェット記録用インク組成物で使用するポリグリセリンにエチレンオキサイドを付加してなる化合物としては、ポリグリセリン1モル当たり5～90モル、好ましくは、10～40モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物が使用できる。エチレンオキサイドの付加モル数が5モルより小さいと吐出応答性が低下し、エチレンオキサイドの付加モル数が90モルより大きくなると、インク粘度の上昇や流動性の低下があり使用が困難となる。

【0012】また、上記ポリグリセリンの重合度は、好適には2～10程度の範囲である。

【0013】尚、ポリグリセリンにエチレンオキサイドを付加してなる化合物の使用量としては、インクジェット記録用インク組成物全体に対して、0.5～30重量%、好ましくは2～20重量%、より好ましくは3～15重量%で使用できる。使用量が0.5重量%より少ないと、吐出オリフィスの目詰まりが防止できず、吐出応答性が保てない。一方、30重量%より多くなると、必要以上にインク粘度が上昇したり流動性が低下する。

【0014】また、本発明のインクジェット記録用インク組成物で使用する顔料としては、水性媒体中に分散可能な公知の無機及び有機顔料が使用でき、特に表面処理により水性媒体に濡れやすいものが好ましい。

【0015】ここで使用可能な無機顔料としては、酸化チタン、ベンガラ、アンチモンレッド、カドミニウムレッド、カドミニウムイエロー、コバルトブルー、紺青、群青、カーボンブラック、黒鉛等、有機顔料としては、溶性アゾ顔料、不溶性アゾ顔料、アゾレーキ顔料、縮合アゾ顔料、銅フタロシアニン顔料、縮合多環顔料等を挙げることができる。

【0016】尚、顔料の使用量としては、インクジェット記録用インク組成物全体に対して1～30重量%程度、好ましくは2～10重量%であり、使用量が少なくなると色濃度が低下し、一方、多くなるとインク粘度の上昇や流動性の低下があり好ましくない。

【0017】また、本発明のインクジェット記録用インク組成物で使用する水性媒体としては、従来から本発明にかかる技術分野で一般的に使用されている水、或いは水混和性溶剤を使用することができる。

【0018】ここで、水混和性溶剤としては、低級アルコール類、多価アルコール類とその誘導体、含窒素環状化合物等が挙げられる。

【0019】具体的には、メタノール、エタノール、ノルマルプロパノール、イソプロパノール等の低級アルコール類、エチレングリコール、プロピレングリコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、グリセリン等の多価アルコール類、エチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プロピレングリコールアセテート、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル等の多価アルコール誘導体、N-メチルピロリドン、N-エチルピロリドン等の含窒素環状化合物等が利用できる。

【0020】尚、水混和性溶剤として、アセトンや酢酸エチル等は印字装置に損傷を与える可能性があり好ましくない。

【0021】また、得られる印刷物に高い定着性、耐水性が要求される場合及びインクジェット記録用インク組成物に高い顔料分散性が要求される場合は、必要に応じて、水性樹脂、水性樹脂を水性媒体中に溶解又は分散するために使用する塩基性化合物をインクジェット記録用インク組成物に加えることもできる。

【0022】ここで、水性樹脂としては、本発明に関わる技術分野で一般的に使用されているものを使用することができる。

【0023】具体的には、重量平均分子量5000～30000の範囲にある、本願出願人が出願している特願30平7-255223号に記載している水性樹脂、アクリル酸アルキルエステル（メタ）アクリル酸共重合体、スチレンーアクリル酸共重合体、スチレンーアクリル酸ーアクリル酸アルキルエステル共重合体、スチレンーマレイン酸ーアクリル酸アルキルエステル共重合体、スチレンーメタクリル酸共重合体、スチレンーメタクリル酸ーアクリル酸アルキルエステル共重合体、スチレンーマレイン酸ハーフエステル共重合体等が挙げられる。特に好ましくは炭素数8～20のアルキル基を有する（メタ）アクリル酸エステルと炭素数1～7のアルキル基を有する（メタ）アクリル酸エステルと（メタ）アクリル酸との共重合体が使用できる。

【0024】尚、前記水性樹脂は、インクジェット記録用インク組成物に対して0.1～20重量%、好ましくは0.2～10重量%の範囲で含有することが望ましい。

【0025】また、水性樹脂を水性媒体に溶解するための塩基性化合物としては、NaOH、KOH等のアルカリ金属の水酸化物、ブチルアミン、トリエチルアミン等50のアルキルアミン、モノエタノールアミン、ジエタノ

ルアミン、トリエタノールアミン等のアルカノールアミン、モルホリン、アンモニア水等を使用することができる。

【0026】また、本発明のインクジェット記録用インク組成物には、更に、必要に応じて界面活性剤、顔料分散剤、粘度調整剤、消泡剤等の各種添加剤を添加することができる。

【0027】以上の成分を用いてインクジェット記録用インク組成物を製造する方法としては、まず、顔料、ポリグリセリンにエチレンオキサイドを付加してなる化合物、水性媒体、必要に応じて水性樹脂、塩基性化合物、界面活性剤、顔料分散剤、粘度調整剤、消泡剤等を混合した後、各種分散機、例えばボールミル、ロールミル、サンドミル等を利用して顔料を分散し、さらに残りの材料を添加混合する方法が利用できる。

【0028】本発明において、所望の粒度分布を有する顔料を得る方法としては、分散機に用いられる粉碎メディアのサイズを小さくする、粉碎メディアの充填率を大きくする、処理時間を長くする、処理速度を遅くする、分散後フィルターや遠心分離機等で分級する等の手段が用いられる。

【0029】以下、実施例でもって本発明を具体的に説明するが、本発明はこれに限定されるものではない。尚、特にことわりのない限り、「部」は、「重量部」を表す。

### 【0030】

#### 【実施例】

【実施例1】カーボンブラック (C.I. Pigment Black 7、三菱化学(株)社製) 5.0部、ノニオン系顔料分散剤0.5部、ポリグリセリン(重合度:4)に5モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部、ジエチレングリコール6.0部、イオン交換水8.1部を加え、1時間プレミキシングを行った後、サンドミルを使用して常法に従い顔料分散を行い、更に、イオン交換水を74.7部を加え、インクジェット記録用インク組成物1を得た。

【0031】【実施例2】攪拌機、冷却管、窒素ガス導入管を備えた四つロフラスコに、酢酸エチル350部を仕込み、75~85℃に加熱した後、窒素ガスを導入しながら、メタクリル酸ステアレート25部、メタクリル酸37.5部、メタクリル酸メチル187.5部とジターシャリーピチルバーオキサイド2.5部の混合物を2時間かけて滴下した。さらに同温度に保ちながら、2時間重合させた後、溶剤を減圧下に留去し、重量平均分子量11000のアクリル系樹脂を得た。

【0032】上記アクリル系樹脂90部、ジメチルエタノールアミン12部、イオン交換水250部を反応容器に入れ、攪拌しながらウォーターバスで70℃に加温し、加熱溶解させ水溶性樹脂ワニスを得た。

【0033】該水溶性樹脂ワニス4.0部、カーボンブ

ラック (C.I. Pigment Black 7、三菱化学(株)社製) 5.0部、ポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部、ジエチレングリコール6.0部、イオン交換水8.1部を加え、1時間プレミキシングを行なった後、サンドミルを使用して常法に従い顔料分散を行ない、更に、イオン交換水71.2部を加え、インクジェット記録用インク組成物2を得た。

【0034】【実施例3】実施例2のポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部の代わりに、ポリグリセリン(重合度:4)に5モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部を用い、インクジェット記録用インク組成物3を得た。

【0035】【実施例4】実施例2のポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部の代わりに、ポリグリセリン(重合度:4)に90モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部を用い、インクジェット記録用インク組成物4を得た。

【0036】【実施例5】実施例2のポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部の代わりに、ポリグリセリン(重合度:2)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部を用い、インクジェット記録用インク組成物5を得た。

【0037】【実施例6】実施例2のポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部の代わりに、ポリグリセリン(重合度:6)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部を用い、インクジェット記録用インク組成物6を得た。

【0038】【実施例7】実施例2のポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部の代わりに、ポリグリセリン(重合度:10)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部を用い、インクジェット記録用インク組成物7を得た。

【0039】【実施例8】実施例2のカーボンブラック5.0部に代えて、銅フタロシアニンブルー (C.I. Pigment Blue 15:3、大日本インキ化学工業(株)社製) 5.0部を用いて、インクジェット記録用インク組成物8を得た。

【0040】【実施例9】実施例2のカーボンブラック5.0部に代えて、ジメチルキナクリドン (C.I. Pigment Red 122、大日本インキ化学工業(株)社製) 5.0部を用いて、インクジェット記録用インク組成物9を得た。

【0041】【実施例10】実施例2のカーボンブラック5.0部に代えて、ジスアゾイエロー (C.I. Pigment

Yellow 83、Hoechst社製) 5.0部を用いて、インクジェット記録用インク組成物10を得た。

【0042】[実施例11]実施例2のジエチレングリコール6.0部の代わりに、ポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物6.0部を用い、インクジェット記録用インク組成物11を得た。

【0043】[実施例12]実施例2で作製した水溶性樹脂ワニス4.0部、カーボンブラック(C.I. Pigment Black 7、三菱化学(株)社製)5.0部、ポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物20.0部、イオン交換水5.0部を加え、1時間プレミキシングを行なった後、サンドミルを使用して常法に従い顔料分散を行ない、更に、イオン交換水6.0部を加え、インクジェット記録用インク組成物12を得た。

【0044】[比較例1]実施例2のポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部の代わりに、ポリグリセリン(重合度:4)に3モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部を用い、インクジェット記録用インク組成物13を得た。

【0045】[比較例2]実施例2のポリグリセリン(重合度:4)に20モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部の代わりに、ポリグリセリン(重合度:4)に95モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部を用い、インクジェット記録用\*

	インクジェット記録用インク組成物	吐出オリフィスの目詰まり
実施例1	1	B
2	2	A
3	3	B
4	4	A
5	5	A
6	6	A
7	7	A
8	8	A
9	9	A
10	10	A
11	11	A
12	12	A
比較例1	13	C
2	14	C
3	15	E

### 【0051】

【発明の効果】以上、実施例を挙げて具体的に説明したように、本発明のインクジェット記録用インク組成物は、重合度2から10のポリグリセリンに5~90モル

\*インク組成物14を得た。

【0046】[比較例3]実施例1のポリグリセリン(重合度:4)に5モルのエチレンオキサイドを付加してなる化合物5.7部を、ジエチレングリコールに置き換えインクジェット記録用インク組成物15を得た。

【0047】[実施例1~12及び比較例1~3の評価]実施例1~12及び比較例1~3の評価で得られたインクジェット記録用インク組成物1~15の吐出オリフィスの目詰まりの評価試験を以下の方法により行ない、その結果を表1に示した。

【0048】[吐出オリフィスの目詰まり]記録ヘッド内の記録液に熱エネルギーを与えて、液滴を発生させ記録を行うオンデマンドタイプのマルチヘッドを有する記録装置のヘッドに試験インキを充填し、キャップをせずに20℃の雰囲気温度下3日放置し、印字が可能となる条件から吐出オリフィスの目詰まりを評価した。

### 【0049】

A:吐出オリフィスのクリーニング0回で印字可能

B:吐出オリフィスのクリーニング1又は2回で印字可能

C:吐出オリフィスのクリーニング3~5回で印字可能  
D:吐出オリフィスのクリーニング6回以上で印字可能  
E:吐出オリフィスのクリーニングを何回しても印字不可能

### 【0050】

#### 【表1】

のエチレンオキサイドを付加してなる化合物を用いたことにより、顔料分散型の水性インクにおいても吐出オリフィスの目詰まりを防止することが可能となる。

フロントページの続き

(72)発明者 石川 裕之  
大阪府大阪市西区江戸堀1丁目23番37号  
サカタインクス株式会社内